

【参考 試算データ】第一波及び第二波の重症者のまとめ（9月21日時点）

参考資料2

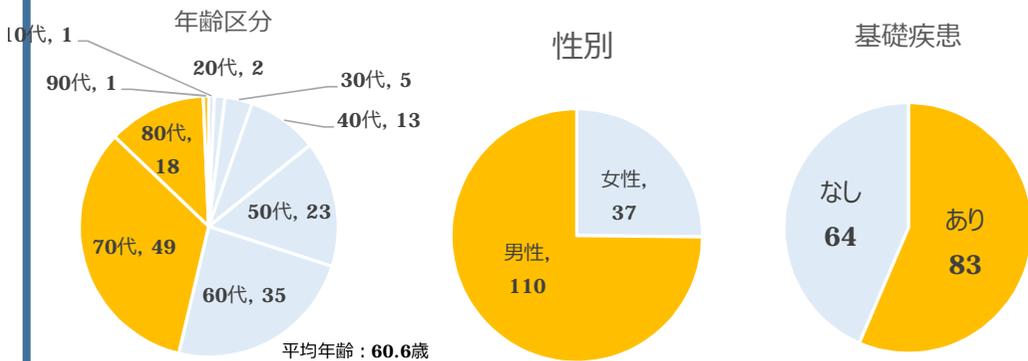
U 第一波に比べ、重症例の年齢構成はほぼ同じであるが、全陽性者に占める重症者の割合、40代以上の陽性者に占める重症者の割合は、いずれも減少。また、性別は男性が75%を占めていた。

※R2.1.29～6.13を「第一波」、6.14以降を「第二波」と総称

第一波

新規陽性者数	1786	
（再掲）40代以上	1054	
重症者数	147	
転帰	死亡	47
	退院・解除	100
	入院中（軽症）	0
	入院中（重症）	0

40代以上の陽性者に占める重症者の割合：13.9%
全陽性者数に占める重症者の割合：8.2%

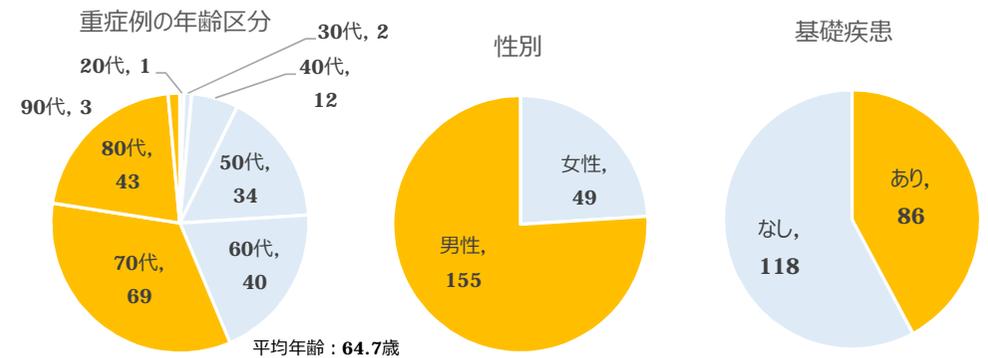


第二波

新規陽性者数	8313	
（再掲）40代以上	3538	
重症者数（※）	204	
転帰	死亡	29
	退院・解除	114
	入院中（軽症）	32
	入院中（重症）	29

※軽症化後の情報把握のため報道提供していない事例が7例あり

40代以上の陽性者に占める重症者の割合：5.8%
全陽性者数に占める重症者の割合：2.5%



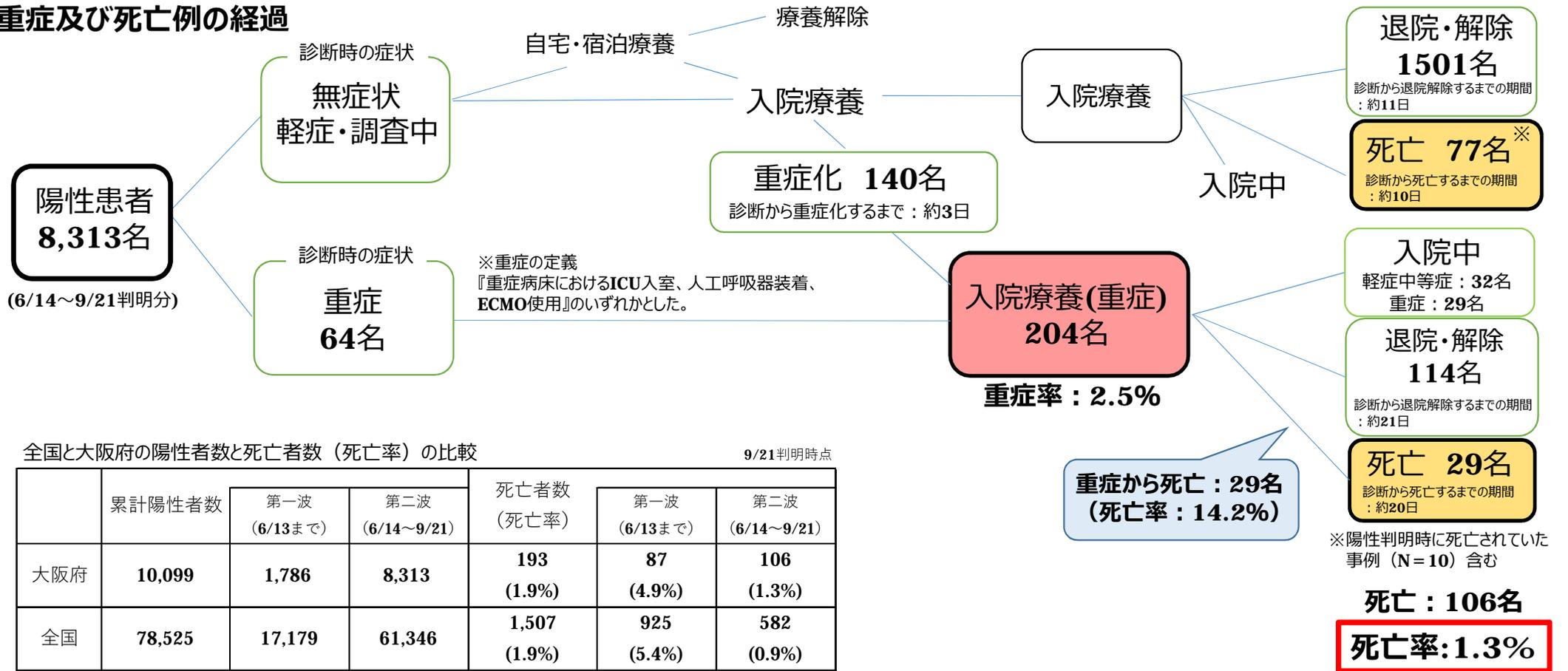
重症の定義：「重症病床におけるICU入室、挿管、人工呼吸器装着、ECMO使用」のいずれかとした。

基礎疾患：相談・受診の目安で示されている重症化リスクの高い患者（糖尿病、心不全、呼吸器疾患（COPD等）、透析患者、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている患者）

【参考 試算データ】第二波の重症及び死亡事例のまとめ（9月21日時点）

- ◆陽性患者8,313名のうち、9/21時点で204名が重症化している（重症率2.5%）。また、106名が死亡した（死亡率1.3%）。
- ◆第二波の死亡率（1.3%）は、全国の死亡率（0.9%）より高い。この背景には、高齢者施設・院内感染のクラスターが多発したことが影響していると考えられる。

重症及び死亡例の経過



全国と大阪府の陽性者数と死亡者数（死亡率）の比較

9/21判明時点

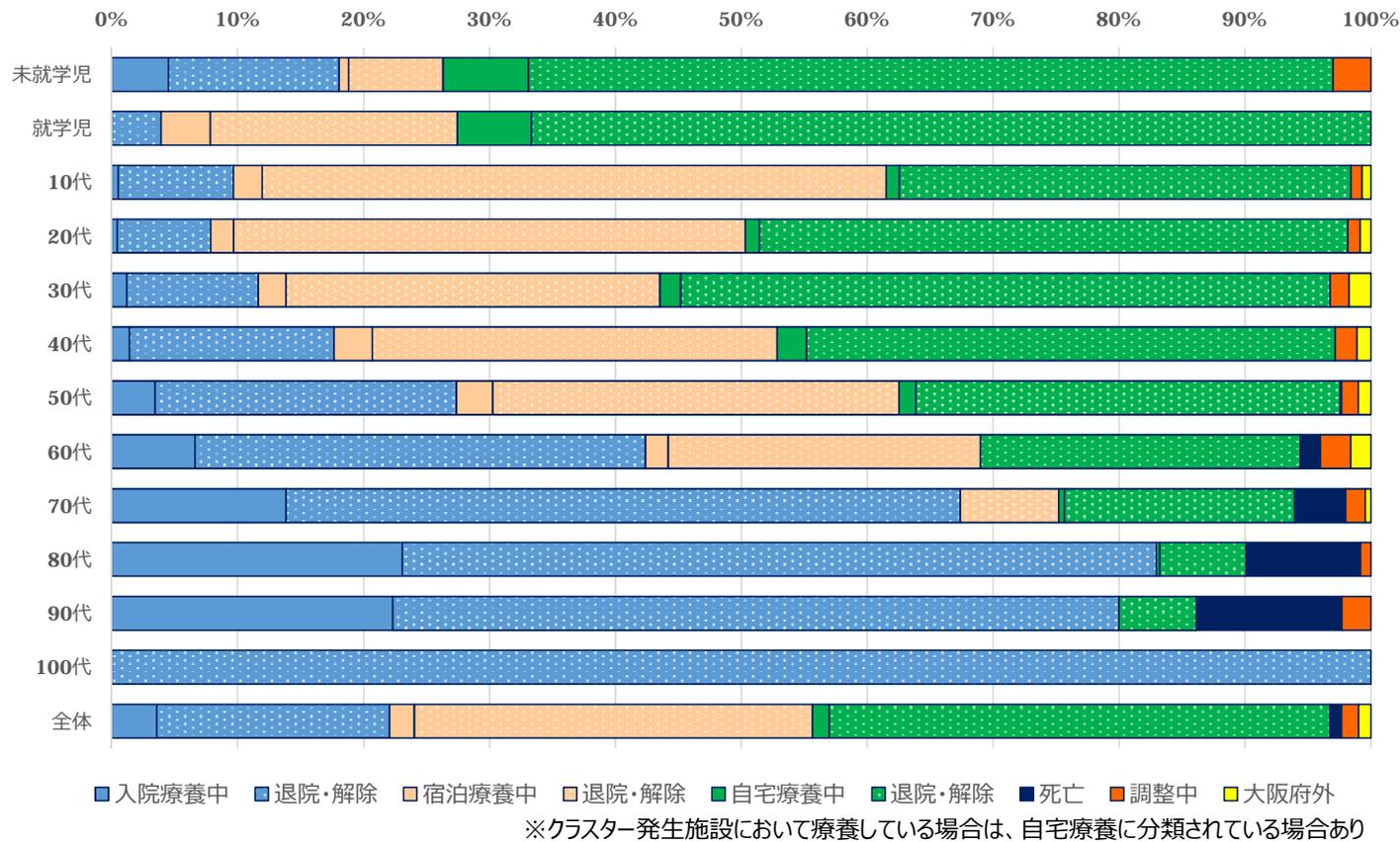
	累計陽性者数	第一波 (6/13まで)		第二波 (6/14~9/21)		死亡者数 (死亡率)	第一波 (6/13まで)		第二波 (6/14~9/21)	
		第一波 (6/13まで)	第二波 (6/14~9/21)	第一波 (6/13まで)	第二波 (6/14~9/21)		第一波 (6/13まで)	第二波 (6/14~9/21)		
大阪府	10,099	1,786	8,313	193 (1.9%)	87 (4.9%)	106 (1.3%)				
全国	78,525	17,179	61,346	1,507 (1.9%)	925 (5.4%)	582 (0.9%)				

※チャーター機帰国者、クルーズ船乗客、空港検疫は含まれていない

※全国は厚生労働省公表資料（各自治体公表資料集計分）より集計

【参考 試算データ】無症状・軽症の療養方法（9月21日時点）

■対象：令和2年6月14日から9月21日判明分（1787例目から10101例目までの8313例）のうち、8109例（重症除く）。



	入院療養	宿泊療養	自宅療養
未就学児	18.6%	8.5%	72.9%
就学児	3.9%	23.5%	72.5%
10代	9.8%	52.7%	37.5%
20代	8.0%	43.2%	48.7%
30代	12.0%	33.0%	55.0%
40代	18.2%	36.2%	45.6%
50代	28.1%	36.0%	35.9%
60代	44.9%	28.2%	26.9%
70代	71.7%	8.3%	20.0%
80代	92.1%	0.0%	7.9%
90代	92.9%	0.0%	7.1%
100代	100.0%	0.0%	0.0%
(再)40歳未満	9.5%	40.5%	50.0%
(再)40～69	27.4%	34.5%	38.1%
(再)70歳以上	82.3%	4.1%	13.7%
全体	22.8%	34.7%	42.5%

※調整中、府外、死亡を除く

陽性者（重症、死亡、調整中、府外除く）のうち、**22.8%**は入院療養、**34.7%**は宿泊療養、**42.5%**は自宅療養であった。年代により療養方法には差があった（40歳未満では約10%が入院に対し、70歳以上では約80%が入院）。

【参考 試算データ】無症状・軽症の療養期間（9月21日時点）

- 対象：令和2年6月14日から9月21日判明分（1787例目から10101例目までの8313例）のうち、8031例（重症及日死亡除く）。
8031例のうち、9月21日時点で療養解除となった者7290名（退院：1501名、宿泊療養解除：2565名、自宅療養解除：3224名）の報道提供日から療養解除までの日数を算出。

	入院療養		宿泊療養		自宅療養	
	解除人数	平均値±標準偏差	解除人数	平均値±標準偏差	解除人数	平均値±標準偏差
未就学児	18	8.89±3.97	10	7.4±1.28	85	6.72±2.74
就学児	2	7±2	10	7.7±1.19	34	6.59±2.61
10代	52	7.67±2.75	282	6.85±2.71	204	3.92±3.22
20代	204	8.23±3.62	1116	6.39±2.19	1283	3.30±2.85
30代	133	8.77±4.64	378	6.82±2.51	656	3.31±2.71
40代	161	9.58±4.36	319	6.89±2.21	416	4.01±3.08
50代	216	10.67±4.85	291	7.23±2.44	304	4.06±3.21
60代	179	11.06±4.60	124	7.11±2.73	127	3.89±3.38
70代	240	12.82±7.51	35	7±2.72	82	5.18±3.84
80代	218	14.60±7.35	0		25	6.44±3.80
90代	75	16.16±8.57	0		8	9±4.18
100代	3	11.67±3.86	0		0	
全体	1501	11.16±6.21	2565	6.71±2.38	3224	3.74±3.08

※クラスター発生施設において療養している場合は、自宅療養に分類されている場合あり

療養期間の平均値は、入院療養が約11日、宿泊療養が約7日、自宅療養が約4日であった。年代が高くなるほど療養期間は長かった。